**大学のまち・京都づくり推進プラン第３回検討会　議事要旨**

１　日　時

平成２５年９月１１日（水）１０時３０分～１２時００分

２　場　所

ルビノ京都堀川　３階　朱雀の間

３　出席者

【委　　　　員】（７名中５名出席）

大西委員、岡村委員、佐藤委員、高見委員、田嶋委員

４　主な発言

・中間案については、これまでの委員意見を踏まえ、枠組みはしっかりしている。

・京都の魅力や強みについて、これまでの議論は概ね反映されている。重要なキーワードは「コンパクト」と「グローバル化」である。

・京都のコンパクトな集積基盤を活かし、まちの実務家も巻き込んで大学が地域貢献を提案できる仕組みを推進する必要がある。

　・中小企業の持つ多種多様なバラエティに富んだ魅力を発信し、敢えて就職先として中小企業を選択する学生を増やし、就職ミスマッチを解消することが必要。

・学生と中小企業のつながりのため，独創的でユニークな経営を実践している中小企業経営者が学生に課題を提供するスタイルでのＰＢＬに取り組み、卒業後の京都定着率を高められないかと考えている。

　・以前は、優秀な学生が中小企業に招かれイノベーションを起こしたが、現在の学生の多くは大企業指向。今は小さな企業でも５０年後にブレイクするかどうか、企業の目利きができる学生の育成を図るべき。

・単に語学力があるだけでなく、自ら考え議論する力を持つ学生の養成が求められている。

・日本人留学生は自分の専門分野外、特に哲学・歴史・文化等について知識がないことが多く、留学先で溶け込めないことがあると聞く。今後は一般教育、共通教育の充実が必要であろう。

・留学生向けワンストップ相談窓口開設はできるだけ早期に実現すべき。

・大学の発展に地域の支持は不可欠なので、留学生問題をとってみても、まちの意識改革に行政・大学が取り組むことは重要である。

　・４０年前と比較して京都の魅力が低下している。対東京を意識した京都の競争力向上という視点が必要ではないか。

以上